



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

(代表電話) 03-3964-1141

(予約専用電話) 03-3964-4890

ホームページ <http://www.tmg Hig.jp/>

第124号 (平成27年11月号)

高齢者に対する心臓大血管手術のはなし

心臓外科部長 西村 隆

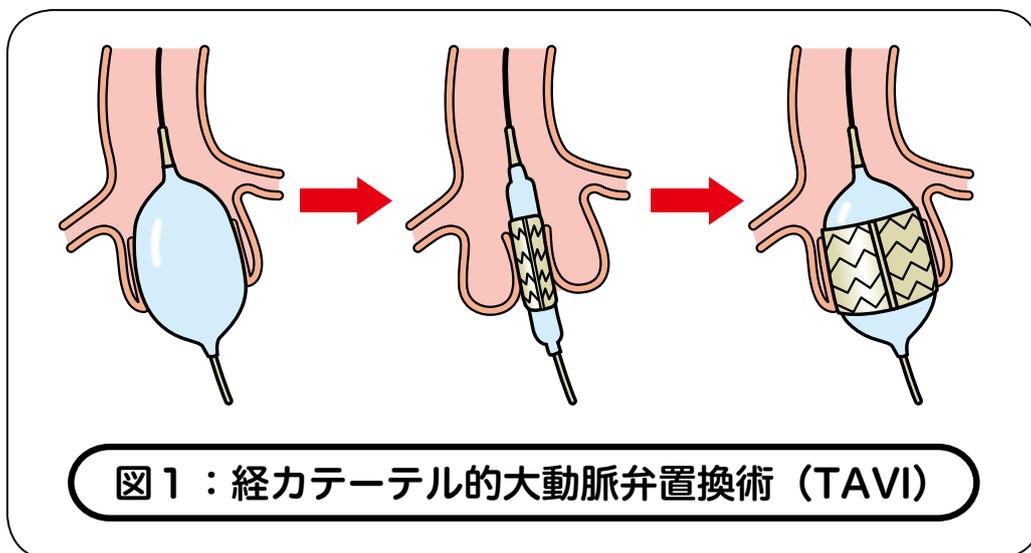
以前から心臓や大血管に対する手術が行われていましたが、体にかかる負担が大きく、危険度の高い手術でした。しかし、手術術式や手術器械、薬物治療、術後管理方法などの進歩によって、その治療成績は飛躍的に向上してきました。この結果として、日本全国の心臓血管外科施設において日常的に手術が行われるようになりました。狭心症に対する冠動脈バイパス術、弁膜症に対する人工弁置換術、大動脈瘤に対する人工血管置換術等です。最近では日本全国で年間6万人前後の患者さまが心臓手術を受けています。この様に多くの方が心臓手術を受けることによって、元気で生活できる期間（健康寿命）を伸ばす時代になってきましたが、高齢の方に対する心臓手術となると話が違います。術後合併症の発生率などは、高齢になると増える傾向があります。そこで、すぐに手術以外の治療を考えるようになりがちです。しかし、疾患によっては保存的治療（手術以外の内服薬などによる治療）を選ぶことによって、心不全などによる苦しい病悩期間が長くなったり、大動脈破裂などによって急死して寿命が短くなったりする場合があります。

当センター心臓外科では、このような事態を解決するため、「高齢者心臓手術治療戦略」として、様々な努力を続けてきました。まず、できるだけ体に負担がかかりにくい「低侵襲手術」を導入してきました。胸部大動脈手術ではカテーテルで人工血管を装着するステントグラフト治療を多く行っています。冠動脈バイ



高齢者に対する心臓大血管手術のはなし

パス術も体外循環装置を用いずに心臓を拍動させたままで行うオフポンプバイパス術を中心にしています。また、カテーテルで大動脈弁に人工弁を装着する経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVI）（図1）も、来年よりいよいよ始めることとなりました。しかし、これらの低侵襲手術によっても、様々な術後合併症がおこる場合があります。その可能性をできるだけ低くするために、術前状態を改善するため、リハビリテーション科とともに、術前心臓リハビリテーションを行っています。専門家の監視下に適切な運動療法を行うことによって、術前に十分に体力をつけてから手術に臨みます。また、栄養科と共同で、術前栄養相談も行っています。栄養状態も体力増強には必須の因子ですので、これを改善することによって安全に手術を受けていただきます。術後の早期回復への治療にもさまざまな工夫を行っています。術後早期抜管として、手術終了後、できるだけ早く人工呼吸器を外して、しゃべることができるようにします。早い人では手術室で抜管して、話をしながら集中治療室に入る場合もあります。また、早期離床として、手術翌日にはベッドサイドに立つ起立訓練を行い、歩行練習も開始します。術後2日目には一般病棟に戻ってリハビリテーションを行います。これらの過程をできるだけ安全に、なおかつ苦痛なく進めるために、理学療法士や看護師などの多職種が共働するハートチームが全面的にサポートします。



この成果として、当センター心臓外科では 90 歳代の患者さまに対しても、安全に心臓手術が行えるようになってきました。一例をあげると、心臓外科疾患のなかでも特に手術リスクの高い急性大動脈解離を発症した 93 歳の患者さまに対して、上行大動脈人工血管置換術の緊急手術を行いました。高齢のため他の病院で手術を断られた方でしたが、それまで元気にされていた方であったため、何とか救命したいと考えて、緊急手術を行いました。幸い術後経過は極めて良好で、術後 3 週間目に歩いて退院されました。

どのような方にでも手術を行いますとは言えませんが、手術によって健康寿命を延ばすことができるのであれば、できる限りの方法を使って、手術を行うつもりです。当センター心臓外科チームは、高齢の患者さまが、健康で長生きしていただくために、より安全で有効な手術を行うべく、全力で努力してまいります。



急性大動脈解離に対して緊急手術を受けた 93 歳の患者さま。術後経過は良好で、術後 3 週間目に歩いて退院できました。



臨床試験管理センターのご紹介

臨床試験管理センター 吉岡 まみ

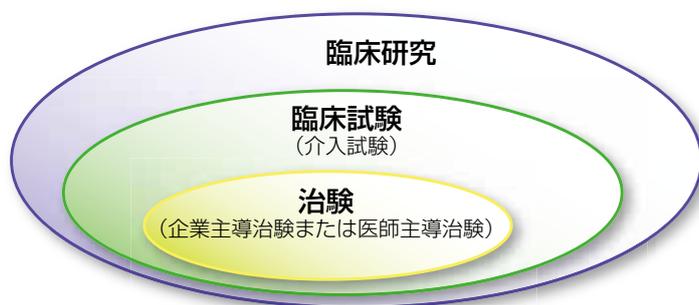
【臨床試験管理センターとは】

臨床試験管理センターは、これまでの治験管理センターの業務を拡大し、治験や臨床研究をより適切に実施するために設立されました。昨今、臨床研究をめぐる不適正事案が社会的な問題となり、新聞等で大きく報じられたことは記憶に新しいところです。このような社会的背景から、特に臨床研究について管理・支援していく体制を強化すべく本年7月1日より新しい組織となりました。

【治験と臨床研究の違い】

臨床研究とは、病気の原因について理解を深め、その予防方法や診断方法、治療方法がさらに改善し、国民の生活の質の向上につながる知識を得ることを目的として実施される活動をいいます。つまり、人を対象として行われる全ての研究を指しています。

治験とは、国（厚生労働省）から「医薬品」または「医療機器」として認めもらうために行われる試験のことをいいます。治験は臨床研究の中の一部となります。



※今回は臨床試験のご紹介はしませんが、簡単にご説明すると、医薬品や医療機器などの安全性や有効性を評価することを目的に実施される研究をいいます。

【現在実施中の治験】

当センターでは現在、下記の治験について実施しております。最近話題となっている軽度認知障害（MCI）の方を対象とした治験やサルコペニアに対する新しい薬の治験、新聞等で紹介された骨髄異形成症候群の治験も実施中です。ご興味がある方はお気軽にお問い合わせください。

疾患名	診療名
軽度認知障害	神経内科
骨髄異形成症候群	血液内科
クロストリジウム・ディフィシル感染症	感染症内科、総合診療科
サルコペニア	循環器内科、リハビリテーション科
慢性心不全	循環器内科
加齢黄斑変性	眼科
症候性の閉塞性動脈硬化症	血管外科

治験ってどんなふうに 進められるの？

お問い合わせは

電話での問い合わせ

03-3964-1141 (代)

メールでの問い合わせ



chiken@tmghig.jp

臨床試験管理センター治験事務局

Step 1

はじめの診察→事前説明

はじめに治験担当医師やCRC（臨床研究コーディネーター）などから治験について詳しくご説明します。その時には治験の目的や方法、検査の内容、来院回数だけではなく、その治験薬（「くすりの候補」）の予測される効果と副作用なども書かれた説明書をお渡しします。疑問点などがあれば治験担当医師に質問し、納得いくまで確認をしてください。

Step 2

同意・署名

治験の内容を理解し、治験に参加することに納得したら同意書に署名と日付を記載してください。

Step 3

参加条件の確認

参加条件は治験によって異なります。治験の対象とされる病気の程度や、これまでの経過、他の病気のこと、決められた病院への通院ができること、年齢や性別などが治験ごとに詳細に決められています。治験への参加に同意した人には、その治験の条件にあうかどうか治験のための診察や検査を行います。その結果によっては、参加者本人が治験参加を希望しても参加できない場合もあります。

Step 4

治験薬の使用

治験担当医師から指示された用法・用量を守って、一定期間治験薬を使います。

Step 5

診察・検査

治験によっては通常よりも来院回数が増えることがあります。また、治験参加中は採血、採尿、血圧測定などの検査を実施して、病状の回復具合だけではなく体調の変化を詳しく調べます。もちろん参加者本人も体調の変化があればすぐに治験担当医師に知らせるようにします。このように病院と参加者で連携をとることによって、副作用の早期発見に努めます。

【みなさんの協力でくすりができる】

「医薬品」が国から認められるまでには、多くの患者さまのご協力が必要です。治験について、ご理解・ご協力くださる患者さまひとりひとりの思いが、新しいくすりの将来へとつながり、治療に役立つくすりの誕生となります。治験や臨床研究について、ご質問や等がありましたら、いつでもお問い合わせください。

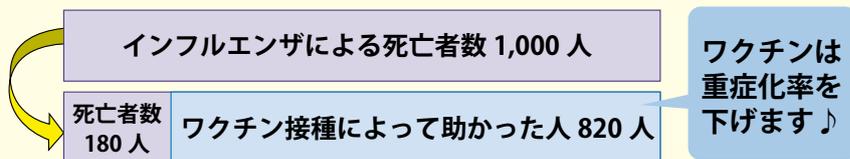


インフルエンザ予防対策

インフルエンザが流行する時期になりました。今年も予防対策をしっかり行い、自分も周りの人も守って、みんなで元気に冬を過ごしたいですね。

1 ワクチン接種

高齢者は、インフルエンザによる死亡率が高いことが知られています。インフルエンザで亡くなった方が1000人いたとすると、ワクチン接種によって820人の方が助かるという研究結果が出ています。



2 咳エチケット

咳症状のある時は、マスクをして飛沫の飛び散りを抑えましょう。

- ・咳やくしゃみを人に向けて発しない
- ・手のひらで咳やくしゃみを受け止めたらすぐに手洗い。腕で押さえる方法もあります。



3 外出後はしっかり手洗い

流水・石鹸による手洗いは手指など体についたインフルエンザウイルスを物理的に除去するために有効な方法であり、インフルエンザに限らず接触感染を感染経路とする感染症対策の基本です。インフルエンザウイルスはアルコールによる消毒でも効果が高いですから、アルコール製剤による手指衛生も効果があります。



4 十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を日ごろから心がけましょう。

厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/qa.html>) をもとに作成

患者さまの声

○母が救急で運ばれ不安な気持ちでしたが、処置が終わり当直の若い女性の医師から懇切丁寧な説明があり、安心して入院させることができました。また、担当となった医師も忙しい中、毎朝必ず顔を見せに来て下さり、母はとても感激していました。医師の他にも親切に接して下さるスタッフの方々と退院までの日々を過ごせたことが、母はとても嬉しかったようです。ありがとうございました。

○予約外にて来院したところ、待たせることになりまずとの説明を受けました。しばらく待ち、診察室に呼ばれて椅子に座ると、医師が名前を名乗り、私の顔をじっと見て「長い時間お待たせしました」と優しい言葉で言われ、今までの疲れやだるさが吹っ飛んでしま

いました。高齢者には優しい一言が何より嬉しいです。清々しい気分で帰ることができました。

○呼吸が苦しく予約無しで来院いたしました。医師はとても親切でよく説明していただき、検査も早速して下さり、毎日悩み苦しんでいた事がスーッと薄れ安心できました。医師を始め看護師さんや検査の先生に心からお礼を申し上げます。こんなに嬉しかったのは久しぶりでした。

○リハビリの先生達にはとても親切にしてもらい、入院していた母親も喜んでいました。ありがとうございました。これからも頑張ってください。

第141回老年学・老年医学公開講座 「認知症にやさしいコミュニティ」

平成28年1月19日(火曜日) 午後1:15~4:15

文京シビックホール大ホール(東京都文京区春日1-16-21)